

平成 30 年度学校教育自己診断アンケートの分析

1. 回答数と回答率

生徒の回答数 566(回答率 96.6%)、保護者の回答数 418(回答率 73.5%)、教員の回答数 54(回答率 100%)であった。

以下、肯定的回答率とは回答 1 (そう思う)・2 (ややそう思う) の合計の数値 (%) で、否定的回答率とは回答 3 (あまり思わない)・回答 4 (思わない) の合計の数値 (%) である。また、△は前年度と比べ増えている場合、▼は減っている場合であり、数値はそのポイント差を表します。

2. 学校生活全般(生徒指導含む) — 生徒 1、2、13、保護者 10、11、教員 3、4

生徒の肯定的回答率が「1 学校に行くのが楽しい」61.1%(△1.3)、「2 学校は生徒の意見をよく聞いてくれる」の 44.9%(△0.9)、「13 学校生活についての先生の指導には納得できる」が 44.4%(△3.4)、保護者の「10 生徒指導面で、学校は家庭への連絡や意思疎通を積極的にきめ細かく行っている」が 59.1%(△3.0)であった。昨年度の反省を踏まえ、生徒への啓蒙活動によって生徒自身が本校の教育内容の理解しより良い学校生活を送れるようにと取り組み、回復傾向にあるがまだまだ低い数字である。しかし、教員の「3 教職員は生徒の意見をよく聞いている」68.5%(▼18.3)、「4 学校は教育活動全般について、生徒や保護者の願いに応えている」が 79.6%(△2.2)と大きな開きがあり、より丁寧な指導が必要である。

3. 学校の基本姿勢 — 保護者 1～4

「1 学校は教育方針をわかりやすく伝えている」の肯定的回答率は 68.1%(▼2.3)、「2 学校は教育情報について、提供の努力をしている」は 68.7%(▼4.9)、「3 学校は保護者の願いにこたえている」は 66.2%(▼2.9)、「4 学校は保護者の相談に適切に応じてくれる」77.2%(▼1.3)であった。若干減少しているが、約 7～8 割程のポイントがあり昨年同様、学校の教育活動については多くの保護者から理解と評価を得ていると考えられる。

4. 授業について — 生徒 3～5、16、保護者 7、8、教員 5～10

生徒の肯定回答率が「5 学習の評価は、テストの得点と、提出物、授業の態度、出席状況など生徒の努力や授業に取り組む姿勢を含め行われている」が 70.0%(▼1.0)、「16 複数の先生が入った授業やクラス人数を半分にした授業など少人数展開の授業はわかり

やすい」の61.0%(▼0.2)とともに、保護者の「8テストの得点だけでなく、いろいろな面から学習の評価を行っている」が78.3%(△2.2)、や教員の取り組みとしても「6少人数指導を取り入れるなど、指導方法の工夫・改善に努めている」87.0%(▼3.6)をはじめ、「5各教科において教材の精選・工夫を行っている」88.9%(▼9.2)、「9生徒の実態をふまえ、体験参加型の学習を行うなど、指導方法の工夫・改善を行っている」が75.9%(△2.3)と高い実施率がある。しかし、生徒の「4家庭で宿題、復習、予習など学校の勉強をしている」の25.1%(△3.2)や「3授業がわかりやすく楽しい」が41.5%(▼0.7)と低く、学習面での達成感や学習意欲の表れに乏し現状が浮き彫りとなっている。また、教員の「10到達度の低い生徒に対する学習指導について、全校的課題として取り組んでいる」66.7%(▼12.5)と昨年度より10ポイント以上減少していることを見逃してはならない。めざす授業像である「わかる」「できる」「おもしろい」授業の実現にむけて、教員は再度、その成果が反映し成果が現れるようにさらに日々努力していく必要がある。

5. 学校行事について — 生徒9、保護者14、教員20

生徒の肯定的回答率が「9文化祭、体育祭、修学旅行等の学校行事は、楽しく行えるように工夫されている」が61.4%(△2.2)と増え、保護者においても「14学校行事に子どもは積極的に参加している」は83.0%(▼1.4)高いポイントとなっている。一方、教員の「20学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている」は81.5%(▼5.3)と2年連続で減少(一昨年度94.6%)している。昨年度の反省(教員の思う「生徒自身が作り上げて行うもの」と、生徒の「ただ参加する」型の行事へのギャップではないかと考え、今後、行事に取り組む有益性や主体性育成により積極的に取り組まなくてはならない)を踏まえてかすかな成果と判断すると共に教員の取り組みの向上再度必要であろう。

6. 生徒会活動と部活動について — 生徒10~12、保護者15~17、教員21, 22

生徒の「12自分としては、部活動に積極的に取り組んでいる(取り組んでいた)」の肯定的回答率が47.1%(▼2.1)、「10生徒会活動に関心を持って積極的に参加している」は26.8%(▼0.1)、「11学校は部活動が活発になるよう、積極的に取り組んでいる」40.3%(▼4.1)と生徒会活動や部活動を行っていない生徒の意識はまだまだ低い現状である。保護者の「15生徒会活動は活発である」は54.7%(▼7.7)、「16部活動は活発である」54.6%(▼9.2)とともに低い。また、教員の「22学校として、部活動の活性化に工夫している」が51.9%(▼16.1)、「21生徒会活動を通じて、生徒が民主的な手続きを経て、主体的に

活動出来るよう学校全体で支援している」が 70.4%(▼3.2)であり、より高い回答率になるように学校全体でより一層の取り組みを行いたい。(生徒会担当教員の中ではその対策として部活動全入制度の検討中)

7. 人権尊重などの教育について — 生徒 14, 15, 17、保護者 18~22

生徒の肯定的回答率が「14 学校や社会のルールについて学ぶ機会がある」が 61.9(△2.0)、「15 命の大切さや人権について学ぶ機会がある」が 71.8% (△6.7) と 2 年連続増加している。このことに満足せず、より一層の人権教育を行い浸透出来るように取り組みたい。

保護者の「19 学校は、子どもに生命を大切に作る心や社会のルールを守る態度を育てようとしている」が 69.4%(△0.9)、「18 学校は、自分の生き方を考え、豊かな心を持った生徒を育てようとしている 59.8%(▼0.3)、「20 学校は、子どもに人権を尊重する意識を育てようとしている」が 65.3%(▼5.0)、「21 先生はすべての教育活動において、生徒の人権を尊重する姿勢で指導にあたっている」が 65.4%(▼0.4) と、昨年度より下がっている項目もあるが、ある程度学校の人権教育に関する取り組みを評価して頂いている。

また、生徒の肯定的回答率「17 成績などの内容についてプライバシーが守られている」が 68.4%(▼0.6)、保護者の「22 学校では子どもに関する個人情報を守られている」が 85.2%(▼2.3)と、若干減少しているが 7~8 割の肯定的回答を得ており、プライバシー保護の取り組みについては生徒、保護者ともに評価されていると考える。

8. その他 — 生徒 19、保護者 27

- ・施設設備に関する項目において、生徒 19・保護者 27 と共に「学校の教室など施設・設備はよく整備されている」の肯定的回答率が各 44.5%(△14.0)、48.9%(△1.1)とポイントアップしているが、昨年度同様早急な改善に努めなければならない。

9. 教員によるアンケート結果より

・今回の集計結果(全 49 項目)において肯定的回答ポイントを昨年度と比べると 34 項目で減少しており大幅な減少(10 ポイント以上)は 15 項目あった。特に「2 教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」が 21.9 ポイント、「13 生徒による問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている」が 22.1 ポイント、「32 学校運営に教職員の意見が反映されている」が 30.8 ポイント、「49 いじめ(疑いも含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる」が 35.0 ポイントであった。前出項目 13、49 においては 1 学期から 2 学期にかけて 1 年生のいじめ関連事象

が起こった際結果的に対応が遅れたものがあり、このことが反映されていると思われる。この件に関しては学校医、スクールカウンセラーの指導の下、再発防止のための対応、早期発見・早期対応策を協議しこの反省を行かせられるようにした。また、前出項目 2、32 においては学校施設の老朽化による修復要請・新たな取り組みにおける物品要求に対して「お金が無い」「予算が無い」によって教職員の要望がことごとく却下されている事が大きな要因であろう。とは言え、「37 学校予算は一定のルールの基づき適切に編成・執行されている」は 92.6%(△15.2)になっており予算が少なすぎる事が大きな問題であると思われる。

・「30 体罰やセクシャル・ハラスメントの防止をはじめ、人権尊重の姿勢にもとづいた生徒指導が行われている」が 83.3%(△2.2)と数値が高く、「27 同和問題や在日外国語問題などの人権問題を正しく理解し、差別や偏見のない社会をめざす主体的な生き方につながる学習となるよう工夫している」が 57.4%(△14.0)、「28 障がい者理解を深め、ノーマライゼーションの理念に基づく社会を築く資質を養うことができるよう工夫をしている」が 61.1%(△8.3)、「29 固定的な性別役割分担意識を是正し、男女共生意識に基づく資質を養うことができるように工夫している」が 57.4%(△8.4)と改善されている。

・「33 教職員の適性・能力に応じた構内人事や公務文章の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境に垂る」の肯定的回答率が 46.3%(▼17.9)、「34 各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」57.4%(▼14.3)、「42 初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている」42.6%(▼21.6)と低い。このことは、教員の多忙な業務に追われるとともに、今年度は 6 月の大阪北部地震、9 月の台風襲撃ならびに度重なる交通機関の運転見合わせや大幅遅れ等の対策に追われ通常業務に支障をきたしたことも大きいと考える。